

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかとうと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番癡惡な種族であつたそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかつたから別段恐しいとも思わなかつた。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあつたばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始であらう。この時妙なものだと思つた感じが今でも残っている。第一毛をもって裝飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶だ。その後猫にもだいぶ逢つたがこんな片輪には一度も出会わした事がない。のみならず顔の真中があまりに

わが
はい
ねこ

羴は猫である
羴はまだ無い

なまえ
な

うま

どこで生れたか
とんと羴がつかぬ

けんとう

なん

何でも羴いじめじめした所でニャーニャー羴い

うすぐら

ところ

な

単語の区切りがわからない

わがはいは
ねこである
なまえは
まだない

どこで
うまれたか
とんと
けんとうが
つかぬ
なんでも
うすぐらい
じめじめした
ところで

ニャーニャー
ない

単語の区切りがわからない

わがはいは
ねこである
なまえは
まだない

どこで
うまれたか
とんと
けんとうが
つかぬ
なんでも
うすぐらい
じめじめした
ところで

ニャーニャー
ない

単語の区切りがわからない

わがはいは
ねこである
なまえは
まだない

どこで
うまれたか
とんと
けんとうが
つかぬ
なんでも
うすぐらい
じめじめした
ところで

ニャーニャー
ない

読んでいる箇所がわからない

1	2	1
ニャーニャー	どこで	わがはいは
ない	うまれたか	ねこである
	とんと	なまえは
	けんとうが	まだない
	つかぬ	
	なんでも	
	うすぐらい	
	じめじめした	
	ところで	

読んでいる箇所がわからない

わがはいは ねこである なまえは まだない

どこで うまれたか とんと けんとうが つかぬ なんでも うすぐらい じめじめした ところで

ニャーニャー ない

わがはいは
ねこである
なまえは
まだない

どこで
うまれたか
とんと
けんとうが
つかぬ
なんでも
うすぐらい
じめじめした
ところで

ニャーニャー
ない

読んでいる箇所がわからない



わがはいは ねこである なまえは まだない

どこで うまれたか とんと けんとうが つかぬ

なんでも うすぐらい じめじめした ところで ニヤー

ニヤー ない

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

わがはい

ねこ

なまえ

な

どこで生れたかとうに見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじ

うま

けんとう

なん

うすぐら

ところ

な

めした所でニャーニャー泣い